

TAKE FREE
ご自由にお持ちください

2026 vol.09

NADOLIVE

ナドリーブ

広報誌

NADOLIVE

発行日：2026年5月
発行：名戸ヶ谷病院



Contents

特集1 診療科紹介 循環器内科
特集2 診療科紹介 整形外科 脊椎センター

医療の現場から / 地域連携施設のご紹介 /
Information / 部署紹介 / Live well, Live long / PIC UP!

社会医療法人社団蜷水会

名戸ヶ谷病院



理念

私たちは全人的医療を目指します

いつでも患者さんの立場に立って医療を行います

先進技術を導入し、適切な医療を実施するように努力します

救急医療を中心に予防医学にも力を注ぎ、医療のあらゆる分野に全力を尽くします

【基本方針】

- 1 患者さんの権利を尊重し、患者さんの信頼と満足が得られるような医療を行うように努めます
- 2 救急医療、急性期医療を当院の使命と考え、救急患者さんは小児から高齢者まですべて受け入れます
- 3 予防医学から在宅医療、高齢者福祉・介護まで、地域に密着した包括的医療を目指します
- 4 地域医療機関や施設との機能分担や連携を図り、救急病院としての機能と責務を果たすよう努力します
- 5 高度な医療と安らげる環境を提供するために、職員の教育と研修に努めます

Access



- 電車の場合
東武アーバンパークライン(野田線)新柏駅より徒歩約7分
- 電車とバスの場合
JR柏駅東口5番バス乗り場東武バス 新柏駅行にじ乗車し、名戸ヶ谷病院入口でお降りください。名戸ヶ谷病院入口の裏が名戸ヶ谷病院入口になります。
- 無料巡回バスも運行しています
ルート内であれば、乗り降りは自由な場所で行っていただけます。
詳しくは、ホームページをご覧ください。

社会医療法人社団蜷水会

名戸ヶ谷病院

〒277-0084 千葉県柏市新柏2-1-1
TEL .04-7167-8336(代表)
<https://www.nadogaya.com>



間違い探し答え：①カモメの数 ②砂のお城の旗 ③青い魚の目
④たこの足の数 ⑤男の子の服の袖の長さ

循環器内科 新体制のご案内

地域で完結する心臓病治療を目指して



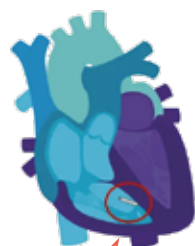
高度な医療機器と技術

名戸ヶ谷病院では、始まったばかりの心臓診療でありながら、限られた施設でしか行っていない治療にも対応しております。

特長

01 リードレス・ペースメーカー

胸を切開せずに
カテーテルで
留置する
負担の少ない
治療。



特長

02 微小循環障害 の診断

冠動脈CTでは異常がないのに胸が
痛む方へ（県内8施設のみ）。

実施施設一覧

（2026年3月末現在・あいうえお順）

蛭水会 名戸ヶ谷病院
国際医療福祉大学成田病院
新東京病院
千葉市立海浜病院
千葉大学医学部附属病院
千葉メディカルセンター
東邦大学医療センター佐倉病院
明理会行徳総合病院

特長

03 新CT装置 （2026.1導入）



心臓CTの画質向上と解析時間の
短縮が見込まれます。

特長

04 心臓の診療が どのような方を対象とするのか 分からないという方へ

- 1 胸が重い・締めつけられる感じがある
- 2 坂道や階段で息切れが出る・前より歩くのがつらい
- 3 動悸が増えた・脈が飛ぶ・逆にとても遅くなる
- 4 脚のむくみ・横になると苦しい
- 5 健診で心電図異常・高血圧・コレステロール・糖尿病を指摘された

これらに1つでも当てはまればご相談ください。
最近エスカレーターを選ぶようになった、買い物帰りの坂で立ち止まるようになった、といった小さな変化も手がかりになります。年齢のせいと決めつけず、早めに調べておくことが重要です。

「なんでも治す」ではなく
「本当に必要なところだけ治す」
私の診療方針は「なんでも治す」ではなく「本当に必要なところだけ治す」ことです。
狭心症は血管が狭くなる病気で、見た目では狭いからといってすべてを治療するわけではありません。心臓に届く血流が不足している血管だけを治すほうが安全で、血流が足りているところまで治療すると、かえって結果が悪くなることが報告されています。



中山 雅文 東京医科大学卒
専門：日本心血管インターベンション
治療学会専門医
日本循環器学会循環器専門医
日本内科学会専門医
SHD心エコー図認証医

2025年5月からより専門的な
心臓の検査・治療まで対応できる体制を整えました。
これまで心電図や心エコーでの評価は行っていましたが、今後は狭心症・心筋梗塞を確認するための心臓カテーテル検査や治療、リードレスペースメーカー治療も当院で受けていただけます。
院内で一連の診断を進められることで、症状があるときに素早く検査を行い、地域で診療を完結できることを目指しております。

軽いうちに見つけて、将来のリスクを下げる

心臓の病気は「軽いうちに見つけて、将来のリスクを下げる」ことが重要です。現時点で手術までは必要ないような軽い変化でも、薬と生活の調整、開業医の先生方と連携した定期的なフォローを重ねることで、将来も手術を避けられるようにしていきたいと考えています。

医師紹介 Q&A

Q1 脊椎脊髄病専門医を目指したきっかけは？

研修医として初めて配属された病院が、脊椎外科の名門でした。そこで現在も師と仰ぐ先生と出会い、医師としての矜持と脊椎外科の奥深さを教わりました。この分野は、正確な診断と責任高位の見極めが何より重要で、それが結果に正直に反映されます。症状と画像が一致して「ああ、そういうことか!」と腑に落ちた瞬間に、この仕事の面白さを感じます。

Q2 リフレッシュしたいときには何をしていますか？

脳が凝ったときは体を動かし、体が疲れたときは本や映画の世界に沈みます。ジムでの筋トレやサイクリングで頭をリセットし、読書や映画鑑賞では物語の中に没頭して心を休めます。時にはゲームでまったく別の世界に入り込み、現実を少し離れる時間も大切にしています。

Q3 医師以外の職業につくとしたら何をしてみたいですか？

実はゲーマーなので、もし医師でなければゲームクリエイターかプログラマーになっていたかもしれません。システムを設計し、限られた条件の中で最適解を探す——その思考のプロセスに惹かれます。臨床の現場でも、「クリニカル・パス」のように汎用性が高く、ミスを起こしにくい仕組みを考えるのが好きです。人の努力で防げる事故には限界があります。だからこそ、「誰がやっても安全に治療できるシステム」を作ることが大切だと思います。



金山修一 神戸大学卒
専門: 日本専門医機構整形外科専門医
日本整形外科学会 脊椎脊髄病医
日本脊椎脊髄病学会 脊椎脊髄外科指導医



Q4 診療において大切にしていることは？

まずは丁寧な診察と説明です。脊椎脊髄の病気は、原因となる神経の位置である責任高位を正確に見極めることが何より重要なことです。ここを誤ると治療の方向性がずれてしまうため、画像だけでなく実際に患者さんに触れて、感覚や歩き方まで丁寧に確認することを徹底しています。
ふたつめは理解の共有です。どこが悪くてどう治すのかを患者さん自身が納得することで、治療への安心感が生まれます。手術の技術はもちろんですが、診断の正確さと説明の誠実さが、信頼関係を築く土台になると考えています。最後に、最も重要なのが自分の判断を疑い続けることです。ルソーの「人は知ってるつもりで誤るのだ」という言葉を常に胸に留めています。医療において最も危険なのは、理解したつもりになること。本当に正しいのか、見落としはないかと自分に問い直し、思い込みに支配されないよう努めています。そうして初めて、患者さんに対して誠実になれるのだと思います。

特集2

診療科紹介 整形外科 脊椎センター

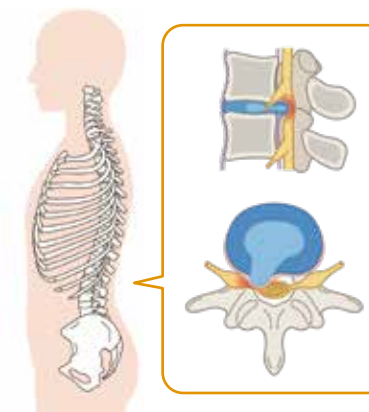
脊椎脊髄疾患とその治療

～しびれや痛みを「歳のせい」とあきらめない～

脊髄圧迫確認後は早期手術を行い、前後で「高気圧酸素療法」を併用し神経回復を促します。

―脊髄損傷への取り組み

診断の基本は「丁寧な診察」
診療の基本は、正確な診断です。画像検査だけでなく、実際に患者さんに触れて感覚や筋力、歩き方を確かめ、どの神経が障害されているかを判断します。診察を通じて障害部位（責任高位）を正確に特定することが、最も効果的な治療につながります。



背骨と神経のはたらき
背骨（脊椎）は身体を支える柱の役割を果たしています。内部には神経（脊髄）が通っており、この通り道が狭くなると、手足のしびれや痛みなどの症状が生じます。

頚椎の神経圧迫

箸が使いにくい、ボタンが留めにくい、歩くとふらつく

腰の神経障害

足のしびれ・痛み、歩くと休まざるを得ない（間欠性跛行）

これらの症状があれば、**神経圧迫解除の検討時期**かもしれません。

頚椎の病気

階段を降りるのが怖い、湯のみを落としてしまう

腰椎の病気

スーパーでの買い物中に何度も休憩が必要、炊事の途中で立ってられない

骨粗鬆症性椎体骨折

体を起こして食事ができない

■「手術をしないリスク」も考える
高齢の方ほど、体が不自由なまままで過ごす筋力や呼吸機能が低下し、寿命を縮めてしまうことがあるため、「手術をしないこと」が命に関わる場合があります。

当院では、重症例や手術を必要とする患者さんを中心に治療を行っています。近年は、顕微鏡やナビゲーションシステムの導入により、より安全で身体への負担が少ない手術が可能になっています。

―手術を検討すべきサイン

■難治症例にも対応
後縦靱帯骨化症、関節リウマチによる頚椎変形、脊柱変形、転移性脊椎腫瘍など

- ① **頚椎症性脊髄症**
手足の動かしにくさや、歩行のふらつきが特徴。歩くと足がしびれて休みながらでないと進めない「間欠性跛行」が典型的。
- ② **腰部脊柱管狭窄症**
歩くと足がしびれて休みながらでないと進めない「間欠性跛行」が典型的。
- ③ **骨粗鬆症性椎体骨折**
軽い転倒でも背骨がつぶれてしまうことがある。

―代表的な脊椎疾患

早期の受診が、将来を守ります

脊椎脊髄疾患は適切な治療で回復を目指せます。地域の先生方と連携し、診断からリハビリまで一貫して支えます。

03

カンファレンス

多職種が集まり、リハビリの状況や病棟ADL、今後の退院先などについて話し合います。



術前カンファレンスでは、術前の状況を踏まえて、術後でのリハビリの注意点などを聞き術後のリハビリに活かしています。



04

書類業務

リハビリテーション総合実施計画書や転院時・退院時のサマリー作成、日々のカルテ記載を行っています。



05

勉強会・症例報告会

学会に参加した際に学んできたことを報告、症例報告会を行い先輩などからアドバイスをもらいながら勉強をしています。



01

リハビリテーション業務

急性期では、術後や入院早期から状態に合わせてリハビリを行っています。回復期では、動作能力の向上やADLの向上、社会復帰・社会参加を目指し、1日に2～3回のリハビリを実施しています。外来では、整形外科疾患の術後の患者様を対象にリハビリを行っています。



02

回診

回診に同行し、リハビリの進捗状況を伝え、安静度や状態等を確認しています。また、医師からの指導や注意点などを聞きその後のリハビリに活かしています。



日常を取り戻す、チームの絆

医療の現場から

当院リハビリテーション科では、医師の指示のもと、理学療法士(PT)・作業療法士(OT)・言語聴覚士(ST)が連携し、早期の機能回復と社会復帰を支援しています。整形外科・脳神経外科・内科疾患など幅広い分野で、患者さま一人ひとりの目標に合わせたリハビリを実施し、生活の質向上を目指しています。

今回は
リハビリテーション科の
仕事内容
について
紹介します!

求人情報はこちら <https://www.nadogaya.com/recruit>
04-7167-8336 人事課

私たちの仕事に興味を持たれた方は
連絡をお待ちしています。



充実したリハビリ環境

三木先生：当院では約100坪の広さを活かし、80㎡以上のリハビリテーション室を完備しています。

手術後の患者様が、地域に戻ってもしっかりと機能を回復できるよう、理学療法士も熱心に取り組んでいます。「病院の手術室を見たい」というスタッフもいるほど、今後は病院のリハビリスタッフとも勉強会などで連携を深め、質の高いリハビリを提供していきたいですね。

國府先生：それは素晴らしいですね。駐車場も広く、患者さんも通いやすいと思います。術後の連携も含め、今後ともぜひ協力していきましょう。



地域の皆様へのメッセージ

國府先生：最後に、地域の皆様に向けてメッセージをお願いします。

三木先生：「痛い」「動かしにくい」といったお困りごとがあれば、まずは気軽にご相談ください。当院は整形外科を中心に、生活習慣病などの内科相談も受け付けています。私が「光」を当てて診断し、必要な治療へと導きます。専門的な治療が必要な場合は、適切な病院へ橋渡しをしますので、安心してまずは受診していただければと思います。

院長：三木 達矢(みつき たつや)

専門: 整形外科、救急科、リハビリテーション科

経歴: 帝京大学医学部卒業。

同大学整形外科・救急科に所属し、大学病院や関連病院で救急診療・手術を経験。地元柏市にて「ますお整形外科・内科」を開院。



地域連携施設のご紹介

ますお整形外科・内科

Interview



医師を目指した原点と開業の想い

國府先生：まずは、この柏の地での開業のきっかけから教えてくださいませんか？

三木先生：私はもともと柏育ちで、中高も地元の学校(江戸川学園取手)に通っていました。医師になり、大学の医局や外傷センターで経験を積む中で、「いつかは育った地元に帰り、地域医療に貢献したい」という思いをずっと持っていました。整形外科医として、救急や外傷(骨折など)の治療に長く携わってきましたが、その経験を活かし、地域の患者様の最初の相談窓口になりたいと考え、この場所での開業を決めました。

役割分担と病診連携

國府先生：先生は外傷センターでのご経験が豊富ですから、地域の患者さんにとっても心強い存在ですね。病院との連携についてはどのようにお考えですか？

三木先生：クリニックの役割は、まず患者様の不安を受け止め、的確な診断(トリアージ)を行うことだと考えています。当院で完結できる治療は責任を持って行いますが、手術が必要な場合や専門性が高いと判断した場合は、信頼できる専門医へ速やかに紹介することが重要です。特に人工関節の手術などは、國府先生をはじめとした名戸ヶ谷病院の先生方に全幅の信頼を置いてお願いしています。

國府先生：ありがとうございます。三木先生からのご紹介は、診断が的確で情報も整理されているので、私たちもスムーズに治療に入れます。逆に、手術後の患者さんを地域にお返しする際も、三木先生のところであれば安心してリハビリをお任せできます。

… 特別インタビュー …

Dr.三木

Dr.國府

地域医療の入り口として、
的確な診断と
充実のリハビリを。

ますお整形外科・内科

TEL: 04-7171-3131

〒277-0033 千葉県柏市増尾2-1-6
東武アーバンパークライン「増尾駅」徒歩1分
(クリエイトS・D柏増尾店となり)
駐車場完備 / 平日18時まで診療



PIC
UP!

「全日本車いすテニスマスターズ」出場選手が来院されました

11月28日(金)～11月30日(日)に柏市花野井のTTC(吉田記念テニス研修センター)にて開催された「第35回 全日本選抜車いすテニスマスターズ」に先立ち、試合前日の11月27日(木)、大会に出場される選手2名が当院へお越しくださいました。

当日は、リハビリテーション室や病棟にて患者さまとの交流の時間を設け、選手の皆さまから競技の紹介や日々のトレーニング、試合への意気込みなどを直接お話しいただきました。

国内トップレベルで活躍されるアスリートの前向きな姿勢や言葉は、患者さまにとって大きな励みとなり、リハビリへの意欲向上にもつながる様子が見られました。病棟スタッフからも、「患者さまが終日明るい表情で過ごされていた」「競技への関心が高まり、会話が増えた」といった声が寄せられています。ご多忙の中、ご来院くださいました選手の皆さま、ありがとうございました!



部署
紹介

医療相談室

当室では、社会福祉士の資格を持つ医療ソーシャルワーカー(MSW)5名が中心となり、**皆さまが安心して治療に専念し、その人らしい生活を送れるようお手伝いをしています。**

お気軽にご相談ください

- ご自宅での介護
- 退院後の転院や施設入所の調整
- 介護保険・福祉制度の活用方法のご案内
- 医療費などの経済的な相談

病院には、病気やケガに伴って、生活や経済面、心理的な不安がつきものです。そんな時、患者さまやご家族の良き相談相手となるのが「医療相談室」です。



「退院と言われたけれど、自宅での介護が不安」「今後の生活費が心配」といった、どこに聞けばよいかわからない悩みごと。

私たちは、医師や看護師、地域のケアマネジャーなどと連携し、解決の糸口を一緒に見つけ出します。相談内容は秘密を厳守いたします。どうぞおひとりで抱え込まず、私たち相談員にご相談ください。

① Information



サンタクロースのサプライズ訪問



寒さが本格化する12月、いつもの病棟に心温まるサプライズが舞い降りました。

真っ赤な衣装に身を包んだサンタクロースが突然姿を現すと、静かな病棟の空気は一変。思いがけないゲストの登場に、患者さまからは驚きの声とともに、自然と笑顔がこぼれました。



サンタクロースからは、一人ひとりに心を込めたプレゼントが手渡され、短い時間ながらも温かい交流のひとつとなりました。ほんの束の間ではありましたが、**病棟全体が優しさとクリスマスの魔法に包まれ、患者さまにとってもスタッフにとっても、心に残る特別な一日となりました。**

Live well, Live long

この「Live well, Live long(健康で長生き)」コーナーでは、毎回専門職の方から健康で長生きするためのコツと知恵をレクチャーしてもらいます。

今回は「脳を若く保つ生活習慣」についてです。脳の老化を防ぐには、毎日の小さな習慣が効果的です。**特におすすめは「早歩き10分」。**少し息が弾む速さで歩くと脳の血流が増え、記憶をつかさどる海馬が刺激されます。

また、買い物の際に**“買う物を覚えて店に行く”**など、**日常の中で脳を使う工夫も有効です。**さらに、寝る前1時間はスマホを控えて睡眠の質を整えることも大切です。無理なく続けられる習慣を積み重ね、脳の若さを保ちましょう。



脳トレ 間違い探し

イラストの中に間違いが**5つ**あります。チャレンジして脳を活性化させましょう。

※答えは裏表紙左下です。

